

# 広がる市民・地域の活動

市民によるみどりを守り育てる活動が広がってきています。  
地域で、森で、学校で、家庭の庭で——  
市では、こうした活動を支援していきます。



## ラベンダーで地域づくり

### 南区・南沢地区町内会連合会

「ラベンダー発祥の地」として目下売り出し中の南区南沢地区。道内初の栽培地だった歴史に着目し、3年前から、地元の北海道東海大学とも協力しながら、道路脇や各世帯の庭先にラベンダーの苗を植え広げています。「札幌の短い夏の風物詩として“南沢のラベンダー”を定着させたい」と笑顔を見せるのは、南沢地区町内会連合会の及川三郎<sup>おいかわさぶろう</sup>会長。色鮮やかな紫の花が地域に広がるとともに、皆さんの夢も大きく膨らみます。



南沢地区内のラベンダー畑にて。及川会長(右)と南沢地区まちづくり協議会の岡村会長が、花の咲き具合を確認しています



## 札苗緑化推進計画

### 東区・モエしまちづくり委員会

もともと一帯はタマネギ畑で、緑が少なかったという東区の札苗地区。同地区の札苗モエしまちづくり委員会では、5年間で約2万本の苗木を植樹しようと、地域全体で取り組んでいます。「世帯数で換算すると1世帯に3本。例えばアパートであっても、窓辺に鉢を一つ置いてくれる、そうした意識の広がりを期待しています」と力を込めるのは、同委員会の菅原守也<sup>すかわけもりや</sup>事務局長。10年、20年先を見つめた活動が、地域の結束を高める力にもなっています。

## 小学校で植樹活動

### 手稲区・富丘小学校

環境教育に力を注ぐ手稲区の富丘小学校では、校舎前に学校ビオトープ(動植物が息できるように造成された小規模な野外空間)を作ったほか、植樹活動も積極的に実施しています。また、敷地内に巣箱を設置したところ、コムクドリが営巣しました!実際に体験することで、子どもたちの自然に対する興味、関心は日増しに高まりを見せています。



## 森を守り育てる

### 森林ボランティア

森の中で活躍する「森林ボランティア」の皆さんをご存じですか。西野や真駒内、藤野、有明などの森で、現在10を数える市民グループが精力的に活動しています。その中の一つ「北の里山の会」は、有明地域の森で毎月1回、10数人の仲間とともに自然を楽しみながら、草刈りや間伐などを行っています。森に学び、森に感謝。木々の息吹を感じながら、みどりを守り育てています。

## 庭を開放して地域交流

### オープンガーデン

自宅の庭を開放して、地域の人と語らう——そんな花を楽しむ市民の輪が広がっています。オープンガーデン発祥の地は、ガーデニングの本場イギリス。庭を見学し合うことで、情報交換や仲間づくりができるとあって、数年前から札幌でも静かなブームになっています。花を愛する人の庭からは、いつも笑顔があふれています。



▲植樹を体験中の子どもたち  
◀富丘小学校の学校ビオトープ。子どもたちは自然の「いのち」に興味津々

